

天皇皇后両陛下主催宮中晩餐会における

ベルギー王国国王陛下挨拶

2016年10月11日

天皇皇后両陛下、ならびに、ご皇族の皆様

王妃と私は、両陛下よりのお招き、そしてただ今の天皇陛下のあたたかいお言葉に深く感謝申し上げます。私共は、日本に到着して以来、気配りに満ちたおもてなしの数々に感銘を新たにしております。

本日の晩餐会は、日本の皇室とベルギーの王室、そして、両国の国民の間の敬意と友情に支えられた長きにわたる関係の歴史に加えられる新たな1ページとなりましょう。故ボードゥアン国王と故ファビオラ王妃は、両陛下と同じ時代を生きた友人でした。両陛下は故ボードゥアン国王および故ファビオラ王妃と、時が経るのにしたが、共感と真摯な情愛に満ちた関係を築かれました。これは今日も私たちに引き継がれています。

私は、過去の公式、あるいは私的な日本訪問を今懐かしく思いおこしております。それらを通して私は日本を少しずつ発見することができました。故ボードゥアン国王に同行しての私の最初の訪日は1985年にまでさかのぼります。続いての訪日では、徳仁皇太子殿下のご好意で、日本文化について学ぶ機会もございました。今回の訪日で、皇太子同妃両殿下と再会できましたことをうれしく思います。経済ミッションでの訪日は、私が即位する1年ほど前にマティルド王妃と訪日したのが直近の訪日となりますが、両国の国民の間に多数の実り多い協力関係があることを確認いたしました。

日本とベルギーは両国の修好通商航海条約締結から150周年を記念し、2016年を「日本・ベルギー友好150周年」として祝うこととなりました。両国の国民は16世紀末以来お互いの存在を認め、互いに影響を与え続けてきましたが、150周年は近代国家としての両国にとってひとつの重要な節目となるでしょう。

ベルギーは日本に、とりわけその洗練された文明と文化に関心を抱き、憧憬の念を自然に高めてきました。日本の芸術表現はベルギーの多くの芸術家にインスピレーションを与え、アール・ヌーヴォーの台頭に寄与しました。特に多彩な鳥や花のモチーフや見事な自然の描写により、装飾芸術に刺激を与えました。レオポルド2世が1901年にラーケン王宮の庭園に日本風の塔の建設を決定したのもこの魅惑に捉えられてのことでした。また、1989年の「ユーロパリア'89現代日本美術展」への記録的な入場者数もその魅力を裏付けています。この記録は今日にいたるまで破られていません。私たちは現在でも、日本の浮世絵の優れた表現性、俳句の純粋性、映画監督の創造性を目のあたりにした時常に魅了されます。また、毎年エリザベト王妃国際音楽コンクールに参加する日本の音楽家の皆様の卓越した才能にも触れずにはられません。

ベルギーと日本は、経済、貿易、学術の分野において、長きにわたり、真の協力関係を築いてきました。私たちは、多く日本人コミュニティをベルギーにお迎えできることを喜び、誇りに思っています。それは同時にベルギーの文化の多様性と豊かさを大きく高めることに繋がっています。ベルギーと日本はお互い各地域に、両国の多くの企業にとって橋頭堡となるものを築いてきました。こういった企業の進出当初から、我々ベルギー人は、集団の利益と個人の勤労意欲の均衡を重視するという日本社会に根ざした日本独特の企業精神に惹かれてきました。この集団の活力は、個人主義が主流となりつつあるこの時代において、守るべき切り札なのです。

日本は、その歴史において、何度となく、近代の撰取と伝統的価値の尊重の両立という特別の姿勢を示してきました。この日本の誇りとも言える能力は、他国との友好関係を継続し、世界における責任を果たすなかでも発揮されてきました。迅速な変化を特徴とする、時に短期的な視野に傾きがちな時代に生きるからこそ、なおさら、今日、私たちが大いに必要とするものなのです。

日本の社会もベルギーの社会も、近代化と絶え間ない新技術の出現の強い圧力にさらされています。これらは進歩を約束するものであると同時に逸脱の危険性を孕んでいます。貴国の人道的価値観と長期的展望をもった考え方は、時として混乱に対する盾となり、持続可能な発展の最良の保証となります。

私たちは、2011年の地震の際に日本国民が示された尊厳と勇気を今でも覚えています。私たちは、一致団結して苦難に立ち向かう、共に再起する、そして、共に未来を描く貴国の能力に感嘆しています。

天皇皇后両陛下、

両陛下は、貴国の国民の皆様の喜びと苦しみを担いつつ、私がさきほど簡単にふれました日本の数多くの美点を体現して来られました。両陛下が日本国民および全世界に示されている誠実で叡智に富み、思いやり深い姿勢に心からの敬意を表します。

ご臨席の皆様、

天皇皇后両陛下のご健康を祈念いたしまして、乾杯したいと思います。